

## 米国 小売売上高のモメンタム鈍化（07年10月小売売上高）

発表日：2007年11月14日（水）

～エネルギー価格の上昇、例年よりも高い気温等によって押し下げられた～

第一生命経済研究所 経済調査部

桂畑 誠治(かつらはた せいじ)

(03-5221-5001 : [sei.ji@dlri.dai-ichi-life.co.jp](mailto:sei.ji@dlri.dai-ichi-life.co.jp))

- 10月の小売・飲食サービス売上高は前月比+0.2%と市場予想の同+0.1を上回った（8、9月合計で0.1%下方改定）。一方、変動の大きい自動車を除く小売・飲食サービス売上高はガソリンの鈍化等によって前月比+0.2%（前月同+0.3%）と拡大し市場予想通りとなったが8、9月合計で0.5%下方改定された。また、全体からガソリンを除いた小売・飲食サービス売上高は自動車の鈍化等によって前月比+0.1%（前月同+0.5%）と減速した。
- 3ヵ月移動平均・3ヵ月前対比年率では、変動の大きい自動車を除く小売・飲食サービス売上高は▲0.3%（前月+3.0%）とマイナスとなった。この数字はガソリン販売が価格下落によって8月に大幅に減少した影響を受けている。このような影響を除いた「自動車・ガソリン販売を除く小売・飲食サービス売上高」も10月に+0.8%（同+4.0%）と大幅に減速している。良好な雇用・所得環境、株式資産残高が増加したにもかかわらず、金融市場の混乱拡大、原油価格の上昇によるマインドの悪化、例年よりも高い気温による衣料品販売の不振によって減速したと判断される。
- GDPベースの個人消費算出に使われる小売・飲食サービス売上高（除く自動車・ガソリン・建材）は、10月に前月比+0.0%（前月同+0.2%）、3ヵ月移動平均・3ヵ月前対比年率+1.8%（前月+4.8%）と減速した。このため、10～12月期の実質個人消費は前期比年率+2%弱と7～9月期の同+3.0%から減速すると予想される。また、8月分が下方改定されたため、7～9月期の実質個人消費は前期比年率+2.7%程度に下方改定されると考えられる。

小売・飲食サービス売上高（Retail and Food Services Sales）

	小売・飲食サービス売上高			耐久財関連 (*1)				非耐久財関連 (*2)		
			除く車		自動車	家具	家電		衣料品	ガソリン
07/01	▲0.0	(+2.2)	+0.2	▲0.4	▲0.8	+2.0	▲1.6	+0.4	+2.8	▲0.0
07/02	+0.6	(+3.6)	+0.5	+0.4	+0.8	▲0.1	+0.4	+0.9	▲1.7	+1.6
07/03	+1.0	(+4.4)	+1.1	+0.7	+0.6	+0.0	▲1.0	+1.0	+2.0	+3.1
07/04	▲0.3	(+2.8)	▲0.1	▲1.3	▲1.3	▲0.6	▲0.2	+0.2	▲1.7	+1.2
07/05	+1.6	(+5.1)	+1.7	+2.0	+1.2	+0.7	+1.1	+1.6	+2.7	+4.6
07/06	▲0.8	(+4.0)	▲0.2	▲2.5	▲2.9	▲1.6	▲1.0	+0.0	▲1.2	▲1.9
07/07	+0.6	(+3.7)	+0.7	+0.4	▲0.0	+1.5	+1.4	+0.7	+1.3	+0.1
07/08	+0.1	(+3.6)	▲0.8	+1.7	+3.4	▲0.7	+0.2	▲0.8	▲0.3	▲2.9
07/09	+0.7	(+4.9)	+0.3	+0.9	+1.8	▲1.3	▲0.2	+0.5	+0.1	+1.8
07/10	+0.2	(+5.2)	+0.2	+0.2	+0.2	▲0.9	+0.1	+0.1	+0.1	+0.8

(出所) 商務省 (Department of Commerce)

(注) 数字は季調済前月比。但し、( )内は前年同月比(未季調)。

\*1:耐久財関連は、自動車・家具・家電・建材関連の売上の合計。

\*2:非耐久財関連は、小売売上高の合計から、耐久財関連を除いたもの。

**自動車を除く小売売上高は前月比+0.2%と減速** 10月の小売・飲食サービス売上高は前月比+0.2%と前月の同+0.7%から減速したものの、市場予想の同+0.1%を上回った（8、9月合計で0.1%下方改定）。  
項目別にみると、耐久財では、家電が拡大に転じ、家具の減少幅が縮小したものの、

自動車の増加ペースが大幅に鈍化したため、耐久財全体は減速した。非耐久財では、需要の強い飲食店の売上が加速し、予想外に建設資材が増加に転じた。さらに、一般小売、スポーツ用品・書籍のマイナス幅が縮小した。一方、例年よりも高い気温の影響で秋物衣料が不振だった衣料品販売が緩やかな拡大にとどまり、ガソリン販売、食料品店が鈍化、通信販売が減少したため、非耐久財全体は減速した。

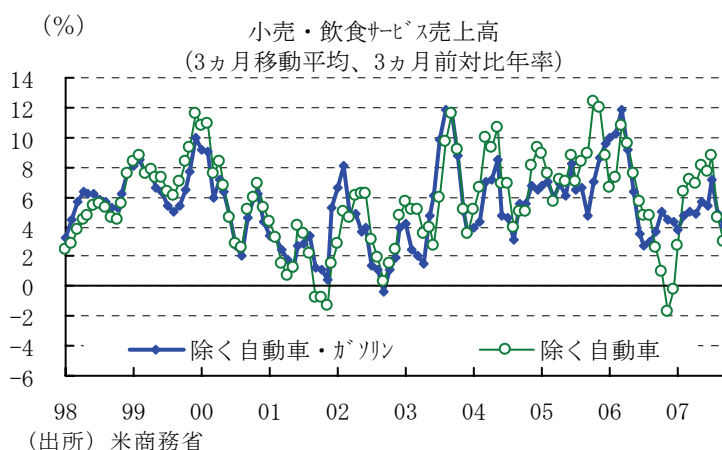
変動の大きい自動車を除く小売・飲食サービス売上高はガソリンが鈍化したことなどにより前月比+0.2%（前月同+0.3%）と市場予想通りとなったが、8、9月合計で0.5%下方改定されており実質的には予想よりも弱い内容。全体からガソリンを除いた小売・飲食サービス売上高はエネルギー価格の上昇、天候要因による衣料品販売の不振によって前月比+0.1%（前月同+0.5%）と鈍化した。

以上のように、10月の小売売上高（除くガソリン）は、良好な雇用・所得環境が続くもと、金融市場の混乱拡大、エネルギー価格の上昇、例年よりも高い気温を背景に減速した。

### 小売売上高のモメンタムは鈍化

月次での変動を均すため3ヵ月移動平均・3ヵ月前対比年率で消費のモメンタムをみると、変動の大きい自動車を除く小売・飲食サービス売上高は▲0.3%（前月+3.0%）とマイナスとなった。この数字はガソリン価格変動の影響を受けているため、自動車・ガソリン販売を除く小売・飲食サービス売上高をみると、10月に+0.8%（同+4.0%）とプラスを維持したが減速した。これは良好な所得環境に加えて、株式資産残高・住宅を担保にした資金調達も増加したものの、金融市場の混乱、原油価格の上昇によるマインドの悪化、例年よりも高い気温による衣料品販売の不振の影響を受けたと判断される。

11、12月はガソリン価格などエネルギー価格の上昇が続くなかで雇用・所得の拡大、企業の積極的な値下げ販売によって、小売売上高は緩やかな拡大基調を維持するとみられる。

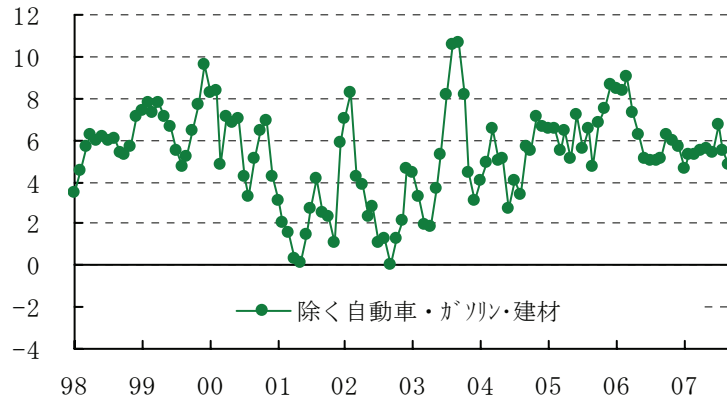


### 小売・飲食サービス売上高 (除く自動車・ガソリン・建材) は、3ヵ月移動平均・3ヵ月前対比年率で+1.8% (前月+4.8%) と減速

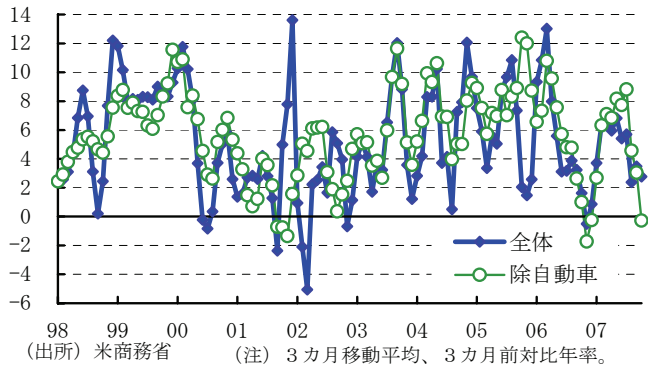
GDPベースの個人消費算出に使われる小売・飲食サービス売上高 (除く自動車・ガソリン・建材) は、10月に前月比+0.0% (前月同+0.2%)、3ヵ月移動平均・3ヵ月前対比年率では+1.8% (前月+4.8%) と減速した。このため、10~12月期の実質個人消費は前期比年率+2%弱と7~9月期の同+3.0%から減速すると予想される。また、8月分が下方改定されたため、7~9月期の実質個人消費は前期比年率+2.7%程度に下方改定されると考えられる。

本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所経済調査部が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見直しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。

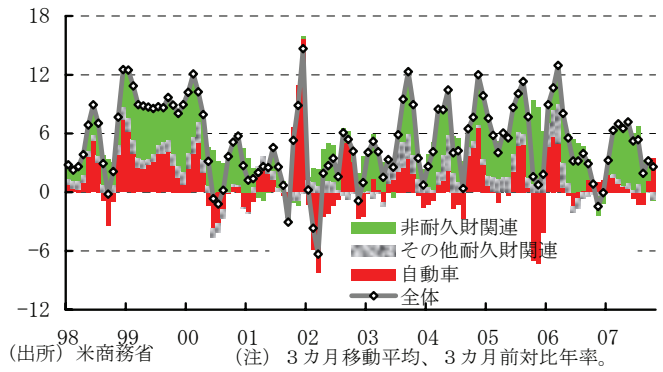
(%) 小売・飲食サービス売上高  
(3ヵ月移動平均、3ヵ月前対比年率)



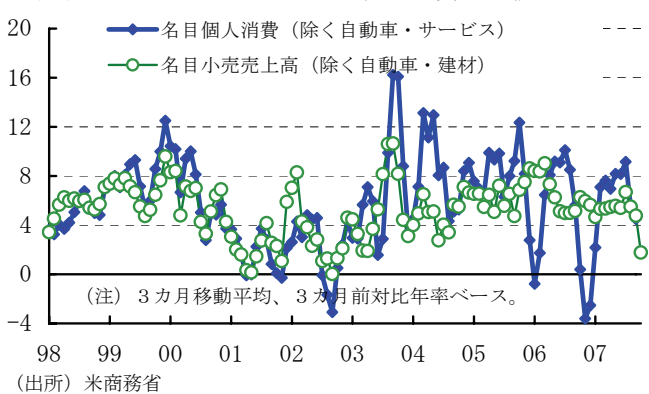
(%) 小売・飲食サービス売上高の推移



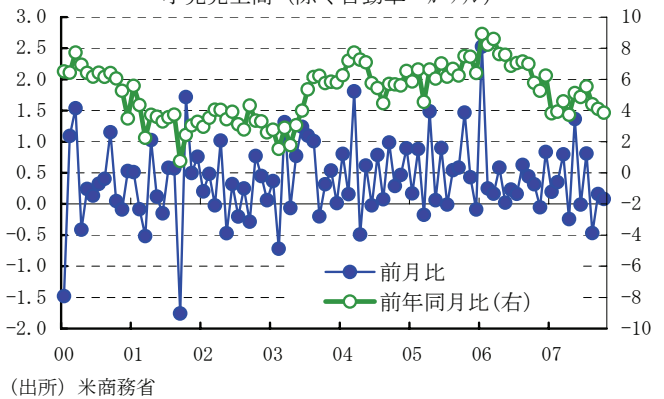
(%) 小売売上高の財別寄与度の推移



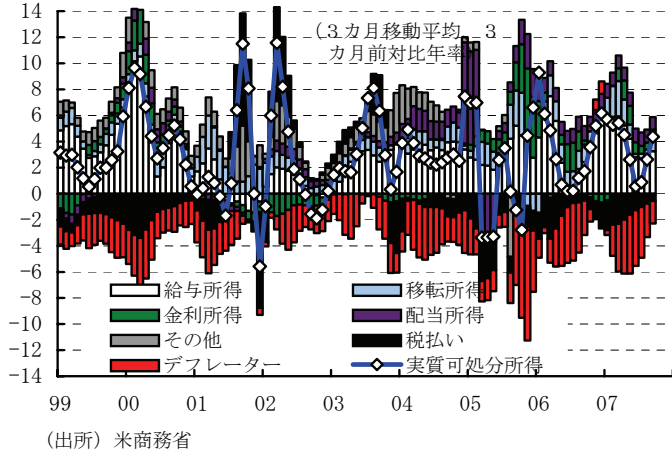
(%) 小売売上高と個人消費の推移



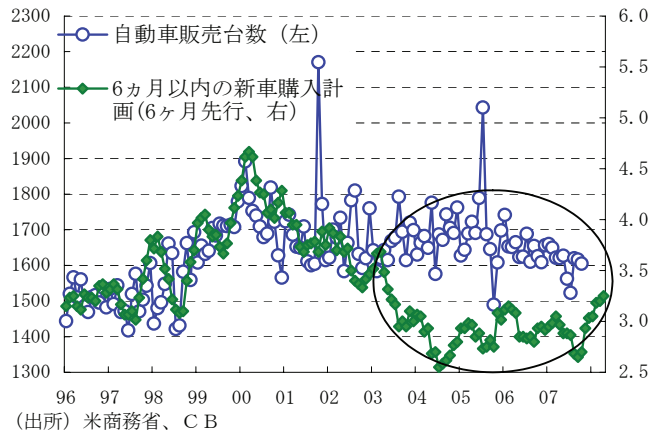
(%) 小売売上高 (除く自動車・ガソリン)



(%) 実質可処分所得の内訳別寄与度の動向



(万台) 自動車販売台数 (季節調整済み年率)



本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所経済調査部が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見直しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。